

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

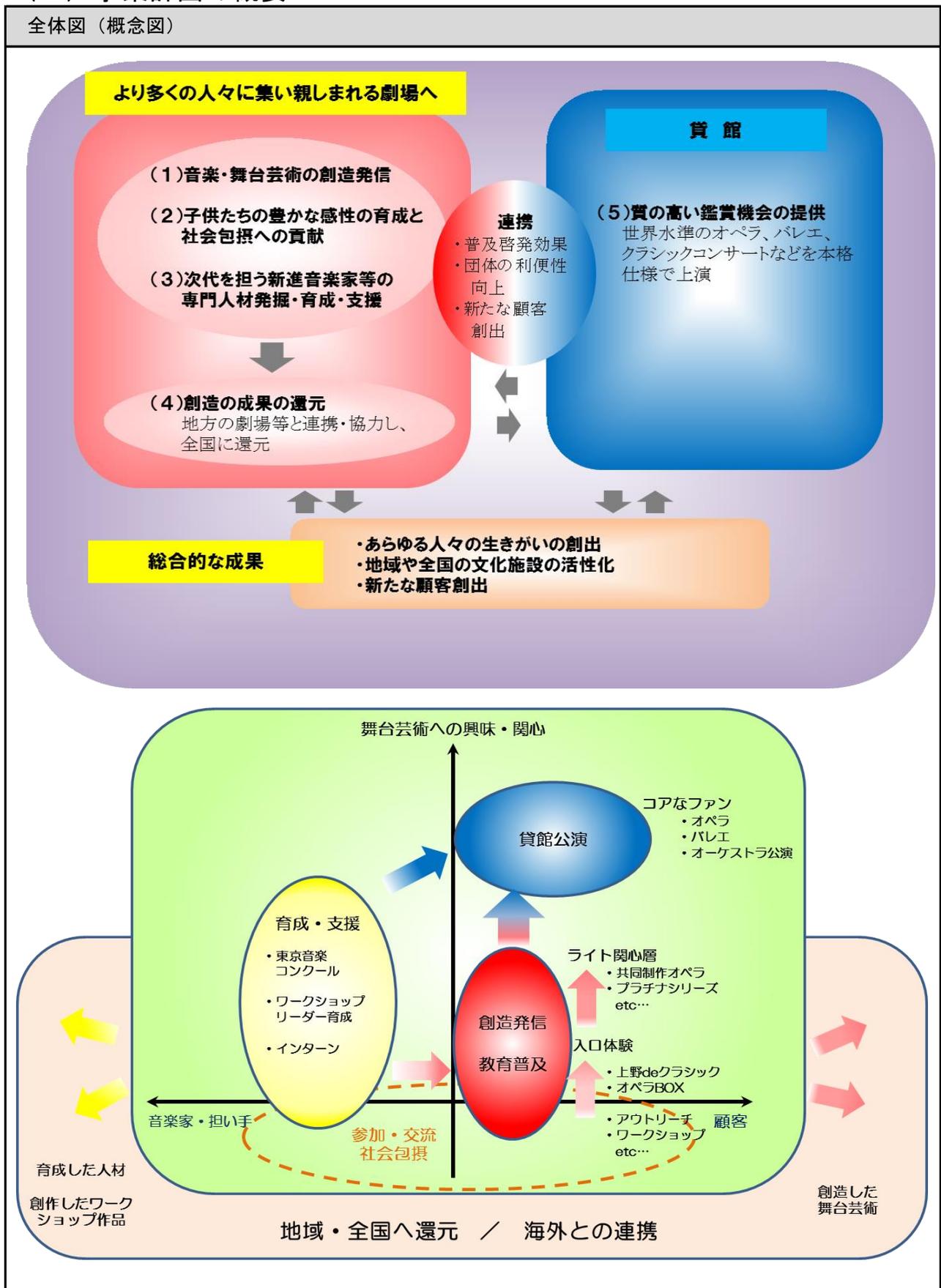
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人東京都歴史文化財団
施 設 名	東京文化会館
助成対象活動名	より多くの人々に集い親しまれる劇場へ
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	61,991 (千円)

事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台芸術創造事業 小ホールシリーズ① たいらじょう×宮田大アンサンブル「SALOME/サロメ」	2019年1月19日、20日	脚本／演出／美術／人形操演：たいらじょう 音楽監督／チェロ：宮田 大 他	目標値	940
		小ホール		実績値	1,169
2	舞台芸術創造事業 小ホールシリーズ② 日本・ハンガリー国交樹立150周年記念「現代音楽と能」	2019年3月9日	能：青木涼子 演出：平田オリザ 他	目標値	400
		小ホール		実績値	581
3	オペラBOX「トスカ」	2018年9月1日、2日	トスカ（ソプラノ）：砂川涼子、上田純子 演出：粟國 淳 他	目標値	1,000
		小ホール		実績値	1,077
4	創遊・楽落らীবー音楽家と落語家のコラボレーション	2018年5月25日 他	演目：宮戸川 落語：瀧川鯉朝 演奏：三界秀実（クラリネット） 他	目標値	2,250
		小ホール		実績値	2,884
5	響の森コンサート	2018年6月26日 他	指揮：小林研一郎 ヴァイオリン：南 紫音 管弦楽：東京都交響楽団 他	目標値	3,600
		大ホール		実績値	4,058
6	上野deクラシック	2018年4月25日 他	ヴァイオリン：依田真宣、瀧村依里 ヴィオラ：瀧本麻衣子 チェロ：加藤陽子 ピアノ：居福健太郎 他	目標値	5,400
		小ホール		実績値	7,366
7	Enjoy Concerts! “Jazz meets Classic” with 東京都交響楽団	2018年9月29日、30日	ピアノ：小曾根 真 トランペット：エリック・ミヤシロ 指揮：エドウィン・アウトウォーター 管弦楽：東京都交響楽団 他	目標値	3,130
		大ホール 他		実績値	3,478
8	Enjoy Concerts! プラチナ・シリーズ	2018年6月15日 他	チェロ：マリオ・ブルネロ ピアノ：江口 玲 他	目標値	2,400
		小ホール		実績値	3,056
9	Enjoy Concerts! シャイニング・シリーズ	2018年11月17日 他	解説：水谷彰良 ソプラノ：天羽明恵 メゾソプラノ：富岡明子 他	目標値	700
		小ホール		実績値	1,075
10	第16回東京音楽コンクール及び東京音楽コンクールの充実	2018年8月20日 他	開催部門：弦楽部門、金管部門、声楽部門 総合審査委員長：小林研一郎 顧問：ジョージ・レンドヴァイ 他	目標値	1,950
		小ホール、大ホール		実績値	2,730
11	第16回東京音楽コンクール優勝者&最高位入賞者コンサート	2019年2月11日	指揮：角田鋼亮 管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団 ヴァイオリン：関 朋岳 他	目標値	1,600
		大ホール		実績値	2,074
12	夏休み子ども音楽会2018 《上野の森文化探検》	2018年7月29日	指揮：現田茂夫 バレエ：奈良春夏、三雲友里加、岡崎隼也 ほか東京バレエ団 管弦楽：東京都交響楽団 他	目標値	1,800
		大ホール		実績値	2,156
13	Enjoy Concerts! 3歳からの楽しいクラシック	2018年11月10日	ピアノ：白石光隆 フルート：上野由恵	目標値	450
		小ホール		実績値	582
14	Enjoy Concerts! まちなかコンサート	2018年9月14日 他	カウンターテナー：村松稔之 他	目標値	4,800
		上野の森美術館 他		実績値	7,077
15	Workshop Workshop!～ 国際連携企画～	2018年4月22日 他	出演：カーザ・ダ・ムジカ ワークショップ・リーダー、東京文化会館ワークショップ・リーダー 他	目標値	2,600
		リハーサル室 他		実績値	6,640

(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
16	Workshop Workshop! 2020 on stage & legacy	2018年6月14日 他	出演：東京文化会館ワークショップ・ リーダー 他	目標値	600
		大塚ろう学校城東分教室 他		実績値	2,241
17	Workshop Workshop! 東京ネットワーク計画	2018年11月3日 他	ヴィオラ：田原綾子 ピアノ：原嶋唯 他	目標値	1,000
		タワーホール船堀 他		実績値	945
18	Music Education Program Talk & Lesson	2018年9月24日	ピアノ：小曾根 真	目標値	550
		小ホール		実績値	614
19	Music Education Program オペラをつくろう！	2018年7月24日 他	講師：須藤桂司（指揮）、栗國淳（演 出）、横田あつみ（美術家）、増田恵美 （衣裳家）、田中義浩（舞台監督）、田中 美佳（児童合唱指導） 他	目標値	800
		リハーサル室 他		実績値	942
20	Music Education Program アウトリーチ ワークショップ	2018年5月17日 他	出演：東京文化会館ワークショップ・ リーダー 他	目標値	1,900
		東村山市立大岱小学校 他		実績値	2,604
平成30年度の目標値、実績値				目標値	37,870
				実績値	53,349

【妥当性】

自己評価

事業計画に必要な構成要素が関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

基本方針に則り、創造発信、人材育成、教育普及の3本の柱を連動させて自主事業を構成し、全て実施した。

全ての目標は指定管理者目標に則り設定しているが、多様な事業を展開した結果、自主事業全体で124,444人の入場者数を達成。30年度の助成対象事業の平均達成率は、創造発信事業129.8%、教育普及事業182%、人材育成事業198%と目標を大幅に上回り、幅広く音楽に触れる機会を創出した。

創造発信事業では、若手アーティストを活用したオリジナル企画コンサートの実施や、舞台芸術の世界初演等を積極的に展開し、国内の他の文化施設における巡回公演も実現する等、高い評価をいただいた。

自主事業の基盤となる人材育成事業では、新進音楽家の発掘・支援を継続して実施したほか、参加型事業の牽引役を担う専門人材向けに様々なトレーニングを実施し、それに伴う障害者や高齢者との取組等、教育普及事業を拡充した。高齢者に向けたワークショップでは効果の検証も行き、超高齢社会に向けた一石となった。

アウトリーチでは島しょ地域や多摩地域等、日頃音楽に触れる機会の少ない地域においても実施し、子ども達の豊かな心の醸成に寄与することが出来た。

貸館や地域との連携も深化させ、「新国立劇場との連携・協力に関する協定書」の締結をはじめ、都内外文化施設や実演家団体とのネットワークを拡大した。

民間の文化施設とも連携した各館が取組む若手音楽家の多様な人材育成を広く周知する事業を展開するなど、今までになかった取り組みを実現した。

「上野文化の杜」の一施設として各館と協力した事業の実施、実演家団体と連携した「上野の森バレエホリデイ」では78,000人が来館する等、拠点となる上野地域の盛り上げに寄与することが出来た。事業全体を通して乳幼児から高齢者、外国人、障害者等あらゆる人々が参加する機会を創出し「音楽の入り口体験から本格鑑賞・演奏への橋渡し」を実現した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

創造発信事業では若手音楽家を多数起用して実施した。当館オリジナル作品や委嘱作品の世界初演を実現した他、初心者からコアなファンまで低廉で質の高い公演を鑑賞できる機会も創出。オリジナル作品は、他の文化施設から次年度以降の開催希望の問合せをいただいている他、アンケートの結果や外部評価委員からの意見等、幅広い層から今後への期待が寄せられている。

教育普及事業では0歳から参加可能なワークショップやコンサートに加え、国内外の先駆的な社会包摂に携わるためのトレーニングを実施し、そこから派生させた障害者や認知症高齢者向けワークショップを実施。高齢者向けの連続したワークショップでは効果の検証を行った。この取組は事業の有効性を証明するだけでなく、他の文化施設や福祉機関へも一つの手がかりとして提供し、社会的な課題解決の一助とすることが出来た。

連携した福祉施設からは継続した事業実施希望も寄せられているほか、拠点である台東区との連携事業も決定しており、超高齢社会に備え、今後、最も求められる取り組みとして、継続的に取組む必要がある。

事業全体を支える人材育成は最重要事項と位置づけ、新進音楽家やワークショップ・リーダー、アートマネジメント人材を発掘して研鑽・活動する機会を数多く創出した。

ワークショップ・リーダーは都外文化施設から、地元のアウトリーチ活動を担う音楽家に向けた講座の講師を依頼される等、継続した多様な機会の創出による成長が見られる。

構築したネットワークを活用して館外でも活躍することで、様々な地域の活性化に貢献した。

拠点となる上野地域では、「上野文化の杜」や「バレエホリデイ」等、地域を挙げた取組が多数実施され、それぞれに踏み込んだ協力を行うことで事業の拡充に繋がった。来る東京2020オリンピック・パラリンピックとそのレガシーとして、継続して周辺の各機関・団体と相互に連携・協力し芸術文化の発信に努めていく。

【有効性】

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

「舞台芸術創造事業」では初来館者率目標を設定。平均達成率14%と平均目標20%に対して下回ったが、入場者数については134.5%、満足度の高さは目標80%に対し平均94%と目標を上回っていることから、シリーズ作品の新たなファンが定着していると推察。他館への巡回公演実現や次年度以降への打診、海外での上演も実現した。

当館ならではの作品創り、関心層への個別な広報活動、シリーズ作品へのリピーターの定着により様々な目標を達成した。

教育普及事業では、教育機関や文化施設との連携目標件数の合計14件に対し61件と大幅に拡大しており、事業開始当時の目標から実績を重ねることにより連携の拡大が認められる。

若手音楽家の演奏機会創出と地域の活性化に向けた取組は文化施設等との連携目標件数2件に対し6件を実現。

今年度取り組んだ高齢者施設における効果の測定は、専門的な第三者の目で客観的に取組を観察しその効果について報告書を作成。今後の目標における指標として当館及び様々な機関に有益な取組となった。

人材育成事業では、ワークショップリーダー育成プログラムへの延べ参加者目標数800人に対し2,239人を実現。参加者増と創作活動の活発化、関心の高さが伺われ、当館のみならず、各地への成果の還元に寄与している。

平成24年度から実施する国内の音楽事業では先駆的な取組であるワークショップを年度を重ねる度に対象の幅を拡大することで、都内の文化施設や教育機関との連携から都外の文化施設との連携に、また福祉機関との連携に拡大している。

超高齢社会を迎える日本においては効果的な取組であることも検証から推察されることから、福祉機関との連携は今後も深化すると考える。

限られた予算と人員による運営であるため、将来的には、関心を寄せる文化施設や教育機関、福祉機関が地域の行政と連携した独自の取組に発展させ、育成した人材が活躍できるよう進化させていく。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

平成30年度に展開した事業は、財団の方針により平成29年前半に予算を組み立てている。さらにその前年度にはアーティストの選定や創造発信事業の概要、人材育成事業のスケジュール等については決定しており、実施会場は規定に準じて15か月前、18か月前に手配すること、また、教育機関との連携に係る事業については、期間を設定してその期間内で事業を展開している。

全ての事業において事業期間による支障は生じず実施することが出来た。

事業費においては、効果的な広報等による入場料収入の予算比20%増、開拓の推進による協賛金・広告料7%増により助成金対象事業全体で約16%の増収入となった。

また、経費においては予算の約89%の支出に抑えて運営し、効率的な事業運営を実現した。徹底した執行管理により、入場料収入増や経費削減状況を把握し、実施することで収入増に繋がらない、公益性の高い社会包摂に係る事業を島しょ地区や障害者施設、高齢者施設等において追加実施し、入場者・参加者目標を大きく上回って実現させることが出来た。

バリアフリー・多言語対応費の執行率が約49%に留まった点は課題として挙げられる。原因としては、職員による翻訳作業で多言語化が可能な部分には翻訳費をかけなかった点に加え、年度末に実施した事業の請求が提出期限に間に合わなかった点が挙げられる。今後の事業運営にあたっては、助成対象事業の実施期間を繰り上げる等の工夫をすることで助成金のより効果的な活用に繋げたい。

【創造性】

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

多くの文化施設が集結する上野の駅前という好立地に加え、世界遺産に登録された建築家コルビュジェが設計した西洋美術館を正面に、その弟子である建築家・前川國男が設計した当館の建築的な魅力と、間もなく60周年を迎える古くからオペラやバレエを本格仕様で上演する舞台機構を持つ施設として数々の著名な欧米の劇場の引越公演が上演され、歴史的にも重要な施設として日稼働率は大ホール91.3%、小ホール100%と非常に高い。

その施設が求められる自主事業は、東京都の文化ビジョンに記載された都立文化施設の運営方針に則った基本方針に沿って、企画・運営されている。

事業の基盤となる人材育成では、小林研一郎音楽監督が総合審査員長を務める東京音楽コンクールの国際化を始めとした活性化を監督自ら推進し、入賞者の活躍の機会を創出している。

オペラを専門とする事業企画課長や照明プランナーでもある舞台管理担当係長の配置により、それぞれの専門性を活かして、創造発信事業や教育普及事業の企画・制作に携わる職員のスキルアップを図りながらミッションに呼応する独創的な事業を展開している。

創造発信では、人形劇俳優の鬼才たいらじょうと若手実力派チェリスト宮田大による「サロメ」を世界初演。2回公演の入場者数の達成率は124%と目標を大きく上回り、満足度も99%と圧倒的な高さであった。また、「現代音楽と能」では、世界的な作曲家エトベシュと日本の現代演劇界で最も注目されている劇作家・演出家の平田オリザの台本と演出による現代音楽と能のコラボや若手作曲家の委嘱作品を世界初演で実現。少数派の現代音楽の観客に加え広く関心と呼び145%の入場者率を達成した。

外国人向けに実施した英語字幕付の「楽落らいぶ」では満足度94.7%と高評を得、アレンジ版が商業施設で実施された。

人材育成、教育普及では、継続した育成プログラムに加え、高齢者や障害者向けのワークショップ実施に向けたトレーニングを国内外の指導者を招聘して実施。同一の高齢者施設で継続してワークショップを実施し、その効果を検証。事業の意義を第三者の目を通して認識する機会となった。

また、「東京ネットワーク計画」では若手音楽家の育成に取り組む民間の2つの施設と連携し、其々の取組を紹介するショーケースを実施して文化施設等に事業説明すると共に、合同でコンサートも開催することで観客や主催者に紹介する、新たな機会を創出した。

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

事業の根幹である「東京音楽コンクール」は小林音楽監督就任後に取組んだ改革により注目度も年々高くなり、審査結果や入賞者について「音楽の友」等の専門誌等に取り上げられた。

その他の事業においても評論家のfacebookや専門誌でも取り上げられ、広く周知する機会となった。

創造発信事業では、音楽劇「サロメ」のいわきアリオスホールでの巡回公演が実現し、他の文化施設の次年度以降上演についても調整中である。

また、「現代音楽と能」で日本初演(演出付:世界初演)した「Secret Kiss」はポルト、マドリッド、ブダペスト、ケルン、ベルリン等海外においても広く上演された。

これらの作品上演時には、音楽以外の分野からの視察希望が寄せられ、新たな観客創出のきっかけとなる作品を提案出来たと考える。

また、多様な対象に向けたワークショップやトレーニングには、他の文化施設や教育機関、福祉機関からの視察を受入れた。平成31年度には他館インターンの視察依頼もあることから、国内での関心も年々高まっていると推察する。

ワークショップは都内各地、千葉、北海道から招聘され開催。次年度の連携にも繋がった。

事業全体は設置者の運営方針に則って運営しており、財団が依頼する外部評価委員会及び指定管理者評価により評価の対象となっている。平成30年度の外部評価委員会及び平成29年度(平成30年度は今秋に決定)の指定管理者評価も高評価を得た。

HPのリニューアルも実現したため、今後も積極的に事業を発信していく。

【持続性】

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

館全体の運営については外部評価委員会及び運営委員会を設置し、目標に沿った事業計画の策定と運営、課題の洗い出しと解決を継続して実施している。

また、若手制作者育成のためインターンを受け入れて、企画段階から運営まで、職員の一員として現場体験を実施しており、終了後には当館の臨時職員や職員として、また、新国立劇場を始めとした文化施設やマネジメント会社において活躍している。

平成30年度には雇用転換制度の活用により1名の正規職員雇用転換が決定し、更に1名の係長級職員の増員を確定した。

劇場の運営には専門人材の確保は必須であり、正規職員が増えることで、専門性が高く、責任も負える職務を実行する体制が整うため財団の方針に則り正規職員の増員を毎年図っている。

職員は財団による計画的な研修への参加や専門分野に特化した研修に参加してノウハウを吸収すると共に、財団内の他の文化施設との協働や、平成30年10月3日に締結した新国立劇場との連携・協力協定を活用した共同制作の実施や双方の職員の交流によって継続的にスキルアップを図っている。

全ての職員は目標を持って仕事に携わり、自己評価と業績評価によって研鑽する制度を導入している。

事業を継続して運営していくためには、自らの資金調達も重要であるため、平成30年度には新たな協賛金制度の枠組みを構築し、平成31年度以降の運用に向けて準備段階にある。また、ロケーションBOXの制度も確立し、平成31年度中に運用を開始する予定である。

更に、友の会制度を賛助会員制度(仮)に展開し、支援者の拡大を目指している。

このような制度を活用し、今まで構築した協賛企業や支援者等との関係を更に深め、安定した運営を目指すと共に、歴史ある当館のファン層を拡大していく。

自らの運営を外部からの視点を通して継続して改善することで、事業のレベル向上と全体の機能強化に繋げている。